

教育長だより

No. 24

2022年1月6日

ピンチはチャンス

～ 学校は人間関係を学ぶ場ですよ ～

新年あけましておめでとうございます。みなさん、新しい年の初めに大きな夢や期待をふくらませておられることとお慶(よろこ)び申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、明日から学校や園が本格的にスタートします。静まり返っていた教室(保育室)に、にぎやかな子どもたちの声が戻って来ます。新しい3学期の始まりに『学級びらき』は大きな意味を持っています。久しぶりの担任の先生との出会いに子どもたちは期待をふくらませていることでしょう。どうぞ先生方、精一杯の自分を出してぶつかっていただけたらと思います。子どもたちは、先生の「生きかた」をしっかり見ているはずですよ。(みなさんの「学級びらき」応援しています。)

ところで、7日の始業式のあとは3連休となり、再び休みが続いてしまいます。本格的な授業(保育)は11日からですね。そこから短い3学期です。先生の側からすれば「学年のしめくり」となりますが、子どもたちの日常は、そんなことおかまいなしです。そして、「普通の日」が続く中で、子どもたちのトラブルがあたりまえのように起こります。先生は「またか!」とため息をつくことになりそうですよね。

でも、そのトラブルにため息をついて指導することに終わらせず、「学級の飛躍のステップ」にできたらと私は考えています。今回は、特に若手の先生の参考にしていただけたらと思って書いています。

そもそも学校には2つの役割があります。まずは、だれもが知っている「学力をつける場」です。そして、もう一つが「人間関係を学ぶ場」です。「学力」の方は授業などをおして積み上げていきますが、もう一つの「人間関係」は、子どもたちが現実のトラブル、つまり、ぶつかり合いをおして、肌で覚えていく作業です。「ここまではOKやけど、これ以上はあかん。」など、それこそ試行錯誤を繰り返しながら学んでいくのです。「学校は、人間関係を学ぶ場」という認識を先生自身が持つこと。これがないと、単に「トラブルの後始末」で、しかも、その連続で、先生は本当に疲れ果てます。でも、「ピンチはチャンス」という言葉があります。たまたま起こったトラブルですが、それを子どもたちに考えさせます。「相手がどんな思いを持っているのか。」「自分はなぜ腹をたてたのか。そして、どうしたいと思うのか。」など、子どもたちは相手に自分の思いを伝える言葉をあまり持っていません。そこで先生が一人ひとりの子の気持ちを引き出す作業をします。この作業は先生の授業と一緒に。当事者の子どもたちは、こうした人とのぶつかりから人間関係を学んでいくのです。ただ、これには教科学習のような「指導書」がありません。先生は「場数を踏む」なかで、その力がついていきます。そして、教材準備のような時間もあります。「その時」は突然やってきます。しかも、多くの場合、先生が忙しくしているときにおこります。でも、心配はいりません。たった一つ言えることは、「一人ひとりの子どもの思いにしっかり寄りそうこと」です。これさえ忘れなければ、トラブルは解決に向かいます。もちろん、先生一人で抱え込んではいけません。子どもの指導は学校全体のものですから、組織として対応するのが原則です。その上で、最前線にいる担任の先生が中心的な指導にあたります。

さあ、新しい年の初め、子どもたちの「人間関係づくり」の『授業』、一つがんばってみましょう。